



Agilent OpenLab CDS EZChrom Edition

バージョン A.04.09

リリースノート

注意

© Agilent Technologies, Inc. 2010-2018

本マニュアルの内容は米国著作権法および国際著作権法によって保護されており、Agilent Technologies, Inc. の書面による事前の許可なく、本書の一部または全部を複製することはいかなる形態や方法（電子媒体への保存やデータの抽出または他国語への翻訳など）によっても禁止されています。

マニュアル番号

M8201-96208

エディション

Rev. B

2018年08月

Agilent Technologies, Inc.

ソフトウェアリビジョン

このガイドは、Agilent OpenLab クロマトデータシステム (CDS) EZChrom Edition、バージョン A.04.09 で有効です。

Microsoft ® は、Microsoft Corporation の米国の登録商標です。

保証

このマニュアルの内容は「現状有姿」提供されるものであり、将来の改訂版で予告なく変更されることがあります。

Agilent は、法律上許容される最大限の範囲で、このマニュアルおよびこのマニュアルに含まれるいかなる情報に関するても、明示默示を問わず、商品性の保証や特定目的適合性の保証を含むいかなる保証も行いません。Agilent は、このマニュアルまたはこのマニュアルに記載されている情報の提供、使用または実行に関連して生じた過誤、付随的損害あるいは間接的損害に対する責任を一切負いません。Agilent とお客様の間に書面による別の契約があり、このマニュアルの内容に対する保証条項がここに記載されている条件と矛盾する場合は、別に合意された契約の保証条項が適用されます。

技術ライセンス

本書で扱っているハードウェアおよびソフトウェアは、ライセンスに基づき提供されており、それらのライセンス条項に従う場合のみ使用または複製することができます。

権利の制限

ソフトウェアが米国政府とのプライム・コントラクト（元請契約）またはその下請契約の履行に際して使用される場合、ソフトウェアは、DFAR 252.227-7014 (June 1995) に定義された “Commercial computer software”、FAR 2.101 (a) に定義された “commercial item” または FAR 52.227-19 (June 1987) もしくはこれに匹敵する政府機関の規則や契約条項に定義された “Restricted computer software” として提供され、使用許諾されます。ソフトウェアの使用、複製または開示は、Agilent Technologies の標準商用ライセンス条項に従うものとし、米国政府の国防総省以外の部局は、FAR 52.227-19(c)(1-2) (June 1987) で定義された Restricted Rights を超える権利を取得しないものとします。米国政府のユーザーは、すべての技術データに適用される FAR 52.227-14 (June 1987) または DFAR 252.227-7015(b)(2) (November 1995) で定義された Limited Rights を超える権利を取得しないものとします。

安全にご使用いただくために

注意

注意は、取り扱い上、危険があることを示します。正しく実行しなかったり、指示を遵守しないと、製品の破損や重要なデータの損失に至るおそれのある操作手順や行為に対する注意を促すマークです。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、注意を無視して先に進んではなりません。

警告

警告は、取り扱い上、危険があることを示します。正しく実行しなかったり、指示を遵守しないと、人身への傷害または死亡に至るおそれのある操作手順や行為に対する注意を促すマークです。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、警告を無視して先に進んではなりません。

目次

はじめに	6
規制環境でソフトウェアをご使用のお客様へ	6
バージョン A.04.09	7
インフラストラクチャサポートの変更	7
Agilent LC の更新	7
Agilent GC の更新	7
OpenLab CDS EZChrom の新機能	7
バージョン A.04.08	8
インフラストラクチャサポートの変更	8
Agilent LC の更新	8
Agilent GC の更新	8
OpenLab CDS EZChrom の新機能	8
バージョン A.04.07 SR2	9
インフラストラクチャサポートの変更	9
Agilent LC の更新	9
Agilent GC の更新	9
サードパーティ製の機器コントロールドライバー	9
OpenLab CDS EZChrom の新機能	9
バージョン A.04.07 SR1	10
実行中のシーケンスの編集や実行中のシーケンスでのメソッド編集用の新しいワークフロー	10
バージョン A.04.07	11
Agilent LC/CE RC.NET ドライバの更新（バージョン A.02.10）、ドライバ A.02.11 のサポート（後日リリース）	11
Agilent GC RC.NET ドライバ A.02.05 インストールパッケージのサポート	11
新しいグラフィカルサンプルエントリ（LC のみ）	11
新しい OpenLab CDS VL 製品のオプション	11
データベースサポート	11
オペレーティングシステムサポート	11
OpenLab Control Panel	12
クラシック Agilent 6890 GC	12

バージョン A.04.06	13
ライセンス	13
オペレーティングシステムのサポートの変更	13
M8620AA OpenLab Data Store ソフトウェア A.02.01	13
OpenLab CDS Shared Services	13
M8370AA OpenLab Data Analysis A.01.02	14
インテリジェントレポートの強化	14
ルールとアラート	14
Agilent 78xx GC ドライバの更新 (バージョン 5.03)	15
Agilent LC ドライバ (RC.NET ドライバ A.02.09) の更新	15
Agilent 68xx GC ドライバの更新 (バージョン 6.23)	15
68xx クラシック ドライバーは使用可能だがサポートされない	15
サードパーティの機器ドライバーのサポート	15
新しいソフトウェアベリフィケーションツール	15
OpenLab CDS のアップグレード	16
ヘルプの「バージョン情報」ボックスで製品および機器ドライバのバージョンを表示	16
バージョン A.04.05	17
OpenLab コントロールパネルの改善点	17
EZChrom Platform の改善点	17
Agilent Parts Finder	17
インテリジェントレポートの強化点	18
クロマトグラムの表示または印刷	18
インテリジェントレポートのプレビュー	18
OpenLab Data Store A.01.02	18
サンプルリクエスト	18
ラボジャーナル	19
Agilent LC ドライバの更新	19
Agilent 78xx GC ドライバの更新 (バージョン 5.01)	19
バーコードスキャン (7890B)	20
リソースの管理機能 (7890B)	20
Early Maintenance Feedback EMF (7890B)	20
5890 GC	20

更新された Hitachi ドライバ (LaChrom および Chromaster)	20
M8370AA OpenLab データ解析 A.01.01 (新規)	20

バージョン A.04.04 22

OpenLab コントロールパネル/Shared Services の更新	22
Data Store ストレージコンフィグレーション	22
マスターインストーラの更新	22
機器-プロジェクトのロック	23
プロジェクトのナビゲーションオプション	23
EP シグナル/ノイズ計算	23
インテリジェントレポートの更新	23
ASCII シーケンスの更新	23
スペクトル蛍光データ	23
機器コントロールドライバの更新	24
Agilent LC コントロールドライバの更新	24
Agilent GC コントロールドライバの更新	24
Hitachi LC コントロールドライバ	24
490 マイクロ GC コントロール ドライバの更新	24
OpenLab ドキュメントおよびマニュアルにアクセスするための新しい HTML ページ	24

バージョン A.04.03 25

マスターインストーラの更新	25
分析中の再解析ステータス	25
インテリジェントレポートの更新	25
結果フラグのアップロード	25
新製品の紹介	25
OpenLab CDS EZChrom VL	25
OpenLab CDS EZChrom Edition Compact	26
新しい機器コントロールドライバ	26
更新された Agilent LC ドライバ	26
新しい Agilent CTC RC.NET ドライバ	26
GC ドライバの更新	26

バージョン A.04.02 27

- Agilent OpenLab ECM の接続性 27
- アプリケーションの仮想化 27
- OpenLab コントロールパネル/Shared Services の更新 27
- マスターインストーラ 27
- 新しい機器コントロール 28
- iControl Panel ツール 28

バージョン A.04.01 29

- インテリジェントレポート 29
- 追加ワークフロー 29
- 新しい結果モード: 29
- 結果パッケージモード: 29
- マスターメソッドモード: 29
- 機器の改善: 30
- OpenLab コントロールパネル / OpenLab Shared Services 30
- 機器管理: 30
- ユーザー管理: 30
- ライセンス管理: 30
- プロジェクト管理: 30
- 新しいライセンス 31
- 新しい通信レイヤ 31
- 印刷 31

ソフトウェアステータスおよびリリース報告 32

はじめに

本書には、Agilent OpenLab クロマトデータシステム (CDS) EZChrom Edition 製品の各リリースの主要な変更点を記載します。ここでは、Shared Services コア製品の変更点が記載されています。

既知の問題および回避方法に関する情報も記載しています。

規制環境でソフトウェアをご使用のお客様へ

Agilent のソフトウェアを更新・変更する場合に必要となる、ソフトウェアの再バリデーション等についてはお客様の責任において実施してください。

ソフトウェアの更新・変更時には、個別の変更内容に対する検証だけではなく、ソフトウェアシステム全体における更新の範囲とその影響を分析し、検証を行う必要があります。

バージョン A.04.09

インフラストラクチャサポートの変更

- OpenLab Server 2.3 のサポート
- OpenLab ECM 3.5 のサポート (ECM は、英語版システムのみサポート)
- A.04.09 は Citrix 7.8 および 7.15 [LTSR] バージョンのみサポート
- Windows Server 2016

Agilent LC の更新

- Agilent LC A.02.19 ドライバーのサポート

Agilent GC の更新

- Agilent GC B.01.04 ドライバーのサポート

OpenLab CDS EZChrom の新機能

- プロジェクト設定の [署名レベルの編集] ウィンドウでの「同じレベルからの複数署名を有効」の切り替えオプション。この機能により、すべての OpenLab CDS EZChrom 新規プロジェクトは、同じレベルの複数ユーザーが同じレベルで複数署名できます。
 - 最終的な電子署名の承認が行われると、結果セットはロックされます。
 - 電子署名の適用後は、さらなる変更、特に「マーカーファイル」の新たな技術的実装により生データへの変更はできません。これは A.04.07 SR2 Update 6 で取り入れられ、A.04.09 に組み込まれています。
- インテリジェントレポートでのスニペット「結果セットバージョン」が、[特殊オブジェクト] > [ライブシステムの値] で利用できます。「結果セットバージョン」は、ECM 3.x と ECM XT のシステムで正しく表示されます。ファイルシステムでの「結果セットバージョン」は、「N/A」と表示されます。

注記：標準レポート/メソッドレポートに表示されるバージョン情報の書式は、インテリジェントレポートの書式とは異なります。[シーケンスバージョン] [変更状態] は ECM 3.x システムで表示でき、[シーケンスバージョン] [結果セットバージョン] は、ECM XT (Data Store/Content Management) システムの標準レポートで表示できます。

バージョン A.04.08

インフラストラクチャサポートの変更

- OpenLab CDS EZChrom と OpenLab CDS 2.x を同じ OpenLab Server 上で同時に実行できる混合モードをサポート
- Windows 10 のサポート
- OpenLab Server 2.1 のサポート
- OpenLab ECM 3.5 のサポート (ECM は、英語版システムのみサポート)

Agilent LC の更新

- Agilent LC A.02.16 ドライバーのサポート

Agilent GC の更新

- Agilent GC B.01.02 ドライバーのサポート

OpenLab CDS EZChrom の新機能

- すべての監査証跡を有効にするオプション (GATE 設定)。この機能により、新しい OpenLab CDS EZChrom プロジェクトのすべての監査証跡が自動的に有効になります。この機能は、OpenLab CDS EZChrom A.04.07 SR2 Hotfix 2 で導入されました。

バージョン A.04.07 SR2

インフラストラクチャサポートの変更

- OpenLab CDS A.02.02 SR2 と OpenLab CDS 2.0 は同じ OpenLab Data Store サーバーの共有をサポート
- OpenLab Data Store 2.0 および ECM 3.4.1 SP2 のサポート

Agilent LC の更新

- Agilent LC/CE RC.NET ドライバーバージョン A.02.13 を搭載

Agilent GC の更新

- Agilent GC RC.NET ドライバーバージョン A.03.02 を搭載
- 7890B が Agilent 8355 化学発光硫黄検出器 (G3488A) および 8255 化学発光窒素検出器 (G3489A) をサポート
- GC78xx のメソッド編集で、注入口、検出器、オープン、シグナルなどの使用可能な機器デバイスのナビゲーションツリーを提供
- 7820A が FPD、FPD+、COC および TCD タイムイベントをサポート

サードパーティ製の機器コントロールドライバー

- サードパーティ製ドライバーを Disk5 に統合

OpenLab CDS EZChrom の新機能

- Citrix 7.6 用サポート (クライアントのみ)
- 文書およびサンプルコードの更新により ATK を更新

バージョン A.04.07 SR1

実行中のシーケンスの編集や実行中のシーケンスでのメソッド編集用の
新しいワークフロー

バージョン A.04.07

Agilent LC/CE RC.NET ドライバの更新（バージョン A.02.10）、

ドライバ A.02.11 のサポート（後日リリース）

- 新しい Agilent 1290 Infinity II マルチサンプラー (G7167A/B) のサポート
- A.02.11 で新しい Agilent Infinity II モジュールのサポート

Agilent GC RC.NET ドライバ A.02.05 インストールパッケージのサポート

- Agilent 78xx RC.NET GC ドライバ、バージョン 5.05
- Agilent 68xx RC.NET GC ドライバ、バージョン 6.25

新しいグラフィカルサンプルエントリ（LC のみ）

オートサンプラーとサンプルコンテナ（トレイとプレート）のグラフィック表示を導入して、シーケンスやサンプルリストの作成作業を簡単にしました。

新しい OpenLab CDS VL 製品のオプション

Agilent LC コアシステム ドライバは、OpenLab CDS VL コアライセンスにバンドルされています。このドライバは、1260 Infinity LC 機器を選択したモジュールと一緒に実行できます（詳細については、『サポートされる機器およびファームウェアガイド』を参照してください）。

データベースサポート

- Microsoft SQL Server 2012 SP2 Standard または Enterprise Edition
- PostgreSQL 9.2
- Oracle 12c R1
- Microsoft SQL Server 2008 R2 SP2 (Standard、Enterprise、または Express Edition) はアップグレードでのみサポート
- Oracle 11g R2 はアップグレードでのみサポート

オペレーティングシステムサポート

- Windows 7 SP1 Professional または Enterprise (32 ビット/64 ビット)
- Windows 8.1 Professional または Enterprise (32 ビット/64 ビット)
- Microsoft Windows Server 2012 R2

OpenLab Control Panel

ラボ全体表示に現在実行中のアンプルを表示する「現在のサンプル」という列が加えられました。

クラシック Agilent 6890 GC

OpenLab CDS EZChrom Edition A.04.06 まで導入されていたクラシック 6890 GC は、サポートされなくなりました。これをデータの取り込みに使用することはできません。68xx クラシック ドライバーは、以前にクラシック 6890 GC で作成したデータの再解析にのみ使用可能です。

クラシック 6890 GC の更新プログラムおよび修正プログラムは今後ありません。

バージョン A.04.06

ライセンス

OpenLab CDS A.02.01 でライセンスバージョンをアップしています。OpenLab CDS EZChrom Edition A.04.06 でライセンスバージョンは 4.6 に上がっています。新しい OpenLab CDS EZChrom Edition A.04.06 をインストールする前にライセンスをアップグレードしなければなりません。お客様が SMA 契約を結んでいる場合は、SubscribeNet に更新ボタンが表示され、ライセンスをバージョン 4.6 にアップグレードすることができます。

オペレーティングシステムのサポートの変更

- Windows 8.1 Professional または Enterprise (32 ビット/64 ビット)
- Windows 7 SP1 Professional または Enterprise (32 ビット/64 ビット)
- Microsoft Windows XP のサポート終了

M8620AA OpenLab Data Store ソフトウェア A.02.01

- OpenLab Data Store には、別の DVD に入っている専用のインストーラがあります。
- PostgreSQL データベースをサポート
- 最大 30 台の機器をサポート詳細については、Data Store のハードウェアおよびソフトウェアの要件ガイドを参照してください。
- OpenLab CDS EZChrom Edition と ICP-MS WorkStations を同一サーバー上でサポート
- このライセンスで Lab Applications はサポートされない

OpenLab CDS Shared Services

- OpenLab Shared Services のログイン、フェイルオーバー、およびローカルコンフィグレーション画面を更新
- PostgreSQL データベースをサポート
- Microsoft SQL Express エディションはアップグレードでのみサポート

M8370AA OpenLab Data Analysis A.01.02

OpenLab Data Analysis は、OpenLab CDS ChemStation および EZChrom Edition のクロマトグラフィデータ用の製品です。OpenLab Data Analysis A.01.02 では、生産性、キャリブレーション、定量が強化され、データのレビューおよび再解析などのユーザーインターフェイスが改善されました。強化された詳細なリストについては、Disk7 のリリースノートを参照してください。

インテリジェントレポートの強化

- 検量線印刷を強化
- クロマトグラムのスケールオプションの強化および新しい色オプション
- 複数のレポートアイテムのフォントプロパティを同時に変更
- テーブル列のプロパティへの直接アクセス
- グラフの軸スケールでの式のサポート
- 図表制御のためのシンプルなピークフィルタ（テーブル、マトリクス）
- 紙のサイズおよび向きをいつでも変更可能
- アライメントツールの改善
- レポートテンプレートおよび監査証跡ビューア用の日付/時間フィルター

ルールとアラート

- 注入前のエラー処理を設定（トレイにバイアルがない場合、インジェクタのプランジャーエラー）
 - バイアルをスキップ
 - 停止
- GC 停止ボタンを押した後でアクションをコンフィグレーション可能
 - GC キーボードで Stop キーを押すと、現在の実行が停止し、レポートが生成され、シーケンスの次の行を続行します。
 - 中断

Agilent 78xx GC ドライバの更新 (バージョン 5.03)

- 水素漏れが検出された場合、水素センサのキャリブレーション、レポート、水素シャットダウンをサポート
- LAN の短い中断後の操作を改善
- [メンテナンス] ダイアログで NPD 調整設定が使用可能
- 7697A ヘッドスペースから 7890B GC への通信をステータスに表示
- EMF およびスリープ/ウェイクおよびベントメソッドでの 7890B GC および 7697A ヘッドスペース間での直接通信を改善

Agilent LC ドライバ (RC.NET ドライバ A.02.09) の更新

- ISET 3 (Intelligent System Emulation Technology) - 1290 クオータナリポンプを使用 [G4204A]
- DAD 検出器 (G4212A/B) の HDR 機能をサポート
- バルブヘッド 5067-4214 (2ps/4pt-4pt, 1200 bar) と UVD G1170A および Flexible Cube G4227A をサポート

Agilent 68xx GC ドライバの更新 (バージョン 6.23)

メソッド編集の [コンフィグレーション] タブ/ALS でオートサンプラーのエラー処理の設定

68xx クラシック ドライバーは使用可能だがサポートされない

68xx クラシック ドライバーは、以前に 68xx GC で作成したデータの再解析にのみ使用可能です。 68xx クラシック ドライバーの更新プログラムおよび修正プログラムは今後ありません。

サードパーティの機器ドライバーのサポート

- Shimadzu RC.NET LC ドライバー
- Hitachi Primaide ドライバー
- Hitachi ChromasterUltra Rs

新しいソフトウェアベリフィケーションツール

IQT レポートおよび据付時適格性評価レポートの名前が、ソフトウェアベリフィケーションおよびソフトウェアベリフィケーションレポートに更新されました。機能に変更はありません。

OpenLab CDS のアップグレード

OpenLab CDS A.02.01 では、アップグレードの進行中にもラボ作業を行うことができ、ラボの機能停止時間が最小限に留められます。このモードでは、同一ネットワーク環境または同一分散環境内での異なる複数バージョンの OpenLab CDS の実行がサポートされます（詳細については、『OpenLab CDS管理ガイド』を参照してください）。

ヘルプの「バージョン情報」ボックスで製品および機器ドライバのバージョンを表示

詳細な製品およびドライバのバージョンが表示されるようになりました。

バージョン A.04.05

OpenLab コントロールパネルの改善点

- ラボステータスの全体表示で、シーケンスの進行状況を確認できます。
- [管理] でのユーザー編集を改善
- 機器ステータス表示のデフォルトを改善

EZChrom Platform の改善点

- 「結果レビュー」モードでユーザーがメソッド、サンプルプレップ、シーケンス、またはデータファイルを開くと、前回開いたメソッドとシーケンスファイルが存在する場合、「結果セット」を閉じてもそれらは割り当て解除に設定されるのではなく、開いた状態に維持されます。
- メソッドが機器にダウンロードされると、オンラインプロットに表示されている信号が自動的に更新されます。
- 機器 Aux トレース曲線がインテリジェントレポートで表示可能です。
- LC ドライバの自動化をサポートする API：サードパーティアプリケーションから Agilent LC ドライバーの機器パラメータの設定（流量、溶媒組成など）
- エクスポートレポートにローカル時刻または UTC を選択するオプション
- 機器の設定値と機器カーブの画面表示と位置が維持
- 取込中に自動積分が機能
- シーケンス分析タイプからの自動ベースライン減算チャンネルの定義
- ECM への容易なシーケンスファイルのアップロード
- 詳細メソッドへの切り取り、コピー、および貼り付け機能の追加
- シーケンスの説明表示フィールドの拡張

Agilent Parts Finder

新しい Agilent Parts Finder ツールは、OpenLab CDS EZChrom Edition に統合されています。このツールは [機器] メニューから呼び出すことができ、ユーザーはパーツ番号を素早く見つけ、パーツリストやお気に入りに追加して、パーツリストを印刷したりファイルに保存したりすることができます。

Parts Finder では、7693A および 7650A ALS、7890A および 7890B GC がサポートされています。

インテリジェントレポートの強化点

- 式結果に基づいた条件付き書式を使用してテーブル列をフォーマットできるようになりました。式には、カスタム変数およびパラメータを含めることができます。

クロマトグラムの表示または印刷

- 新しい印刷オプションは、白黒プリンタでのクロマトグラム出力を最適化します。シグナルはすべて黒色で描かれます。
- ベースラインの描画が改善されました。
- シグナルが重なった場合に、ユーザーはシングルシグナルのピーク注釈を制限するか、すべての注釈を付けるかを選択できるようになりました。
- 検出器の高いサンプリングレートでは、ビットマップデータの圧縮をオフにすることができます。このオプションによる取得した生データへの影響はありません。データ圧縮をオフにすると、シグナルの表示および印刷のみが改善されます。
- 新しいレポートオプション「フラクションディレイ」を使用すると、クロマトグラム出力でフラクションがマーキングされた時に、フラクションコレクタと検出器の間の遅延時間を補正することができます。
- ACAML ファイルではなく EZChrom レジスタファイルから監査証跡情報を読み取ることにより、印刷のパフォーマンスが改善されました。監査証跡は、引き続き期待通りにレポートされます。

インテリジェントレポートのプレビュー

更新したレポートのプレビューを、ハードコピーとして印刷または PDF として保存できるようになりました。

OpenLab Data Store A.01.02

OpenLab Data Store A.01.02 から、Lab Applications が導入され、一般的なラボラトリワークフローへの対応が可能になりました。これには 2 つのアプリケーションが含まれています。

サンプルリクエスト

- 分析の要求 - シーケンスを準備して、Data Store を通してこれを分析者に割り当てます。
- 分析の受け入れと完了 — 分析者はシーケンスを受け取り、Agilent CDS システムを使用して機器で分析を行い、結果を Data Store に保存します。
- 結果レビュー — 結果をインポートして、Data Store 上でレビューし、承認または却下します。

ラボジャーナル

- 機器やカラムなどのラボアセットを管理します。
- 機器の整備、交換、キャリブレーションなど、重要なラボイベントを記録します。
- 特定の機器またはカラムで発生した作業を検討します。
- 機器またはカラムのシンプルな使用頻度の情報を表示します。

さらに、新しいアプリケーションをサポートするため、Data Store ユーザーインターフェイスが更新されました。

Agilent LC ドライバの更新

以下を含む、Agilent 1260 分取 LC システムのサポート

- 1260 アイソクラティック分取ポンプ (G1361A)
- 最大 4 個の 1260 アイソクラティック分取ポンプ (G1361A) のクラスタ
- フラクションコレクタ (G1364A)
- 最大 3 個のフラクションコレクタ (G1364A/B/C または G5664A) および追加で 1 個のフラクションコレクタ (G1364A/B/C または G5664A) のクラスタ
- 1260 デュアルループオートサンプラ (G2258A)
- 1260 分取オートサンプラ (G2260A)

Agilent 78xx GC ドライバの更新 (バージョン 5.01)

- 新しい Agilent 7890B 機器のサポート
- バイアルの不足などのオートサンプラ (ALS) のエラー処理の改善 (GC ステータスのユーザーインターフェイスで指定する ALS 中断/再試行オプション)
- 7890B での新規リソースの管理機能 (スリープ/ウェイク)
- 7890B での新規 Early Maintenance Feedback (EMF)
- 7890B での新規バーコードスキャンと自動入力
- カラムロック機能などのカラムコンフィグレーションの更新
- 新しいシリングとライナーのコンフィグレーション
- 7667A Mini Thermal Desorber (TD) のサポート
- メソッド編集に統合された GC 計算
- カラムデータベースの更新
- シリングとライナーの新規データベース
- 新しいキーパッドロックオプション

バーコードスキャン (7890B)

バーコードスキャンにより、カラム、ライナーおよびシリング情報をメソッドに自動的に移動することができます。

リソースの管理機能 (7890B)

新しいリソースの管理機能を使用して、ユーザーはガスおよび電力の消費を低減することができるようになりました。手動で、またはウェイク/スリープメソッドで時間をスケジュールして機器をスリープにすることができます。

Early Maintenance Feedback EMF (7890B)

GC のコンフィグレーションに基づいて、ユーザー定義の EMF カウンタを OpenLab CDS で設定できるようになりました。警告およびサービス期限の通知は、設定したスレッショルドに基づいて表示されます。EMF 例外はインテリジェントレポートに印刷することができます。

5890 GC

OpenLab CDS EZChrom Edition A.04.04 で、5890 GC が Agilent OpenLab コントロールパネルの機器選択から消去されました。5890 GC を設定することはできなくなりました。5890 GC の設定機能は、OpenLab CDS EZChrom Edition A.04.05 に下位互換性専用として再導入されています。

5890 ドライバーは、以前に 5890 GC で作成したデータの再解析にのみ使用可能です。5890 ドライバーはテストおよびサポートされなくなりました。5890 GC ドライバーの更新プログラムおよび修正プログラムは今後ありません。

更新された Hitachi ドライバ (LaChrom および Chromaster)

M8370AA OpenLab データ解析 A.01.01 (新規)

OpenLab Data Analysis で、Agilent はサンプルレポート、シーケンスサマリレポート、およびマルチシーケンスサマリレポートの作成が可能な新しいデータ解析パッケージを導入します。これは、EZChrom と ChemStation エディションのデータに互換性があり、これらを統合できます。

初回のリリースは、化学製品および石油化学製品の研究室と、炭化水素プロセス工業におけるデータ解析用に設計されています。バージョン A.01.01 の機能：

- 迅速な再解析処理 (OpenLab CDS の 10 倍以上の処理速度)。

- 直感的なユーザーインターフェイス。
- メイン機能やデータにすばやくアクセスするための Microsoft スタイルのリボン機能とデータ選択ツリーの改善。複数フォルダーからのデータ選択、完了した結果セットの読み込み、シングルサンプルの選択などを行なうことができます。
- 迅速なレビューに対応した、ワンクリックで使用できるピーク積分ツール。
- 容易なサンプルレビュー：新しいデータ表示コンセプトにより、数百のシグナルの重ね書きと比較が可能になりました。LC 機器と GC 機器の同時連携が可能で、複数のメソッドとデータセットを平行して使用することができます。
- 特定のピークに合わせた自動スケール、メインピークの無視、ベースラインに合わせたスケールなどが可能です。事前に用意されている 4 つの変更可能なレイアウトを使用した、画面レイアウトのカスタマイズをサポートしています。

バージョン A.04.04

OpenLab コントロールパネル/Shared Services の更新

- ライセンスユーザーインターフェイスの強化
- 一般的プロジェクト
- Data Store 認証
- Data Store との同期

Data Store ストレージコンフィグレーション

OpenLab CDS EZChrom Edition および Shared Services では、分析データの保存場所として、Data Store の使用に対応しています。Data Store 保存システムの使用は、OpenLab CDS のネットワークシステムおよび分散システムでサポートされており、システムに次のような利点があります。

- セキュリティ機能のある中央記憶領域システム
- 中国語および日本語のローカライズコンテンツに対応
- 検索、共有およびレビュー用の Web ベースのデータアクセス
- 結果パッケージのバージョンコントロール
- 21 CFR 11 準拠の電子署名と監査証跡

マスターインストーラの更新

マスターインストーラでは、A.04.03 システムからの自動アップグレードインストールをサポートします。A.04.01 からの自動アップグレードはサポートされていないため、アンインストールが必要です。

マスターインストーラのメンテナンスセクションで、ソフトウェアインストールの修復がサポートされるようになりました。

マスターインストーラのメンテナンスセクションで、追加ソフトウェアのインストールツールが使用できるようになりました。現在、以前のリビジョンからアップグレードした AIC またはクライアントへの Data Store コンポーネントの追加のみサポートしています。今後、この機能は他のアドオンをサポートしていきます。

スクリプトを使用したクライアントおよび AIC のインストールに対応するようになりました。インストーラパラメータ定義の最後に XML ファイルをエクスポートし、その後に他のマシンに同一のコンフィグレーションでインストールすることができます。

マスターインストーラでは、サーバ、AIC、クライアントを含めた中央データ記憶領域システムコンポーネント用の Data Store のインストールをサポートするようになりました。

機器-プロジェクトのロック

プロジェクトでは、管理者が機器のデフォルトプロジェクトを設定することができる機能が導入されました。このデフォルトプロジェクトは、すべてのユーザーが機器を起動する際の必須プロジェクトにも設定することができます。

プロジェクトのナビゲーションオプション

プロジェクトには、定義したプロジェクトフォルダー内で、管理者がプロジェクトのユーザーをロックできるオプションが導入されました。これより、ユーザーは、既定のプロジェクト構造以外のロケーションでファイルを開いたり保存したりできなくなります。

EP シグナル/ノイズ計算

内蔵のシグナル/ノイズカスタムパラメータに、ノイズ計算を補正したベースラインドリフトに関する新しい欧州薬局方の計算要件が反映されました。

インテリジェントレポートの更新

レポートエンジンは、バージョン 1.4 ACAML フォーマットをサポートするようになりました。LC 機器パラメータからのメソッド情報を、インテリジェントレポートに使用できるようになりました。

ASCII シーケンスの更新

ASCII シーケンスでは、メソッドの注入ボリュームを使用できるようなシーケンスの注入ボリュームコードをサポートするようになりました。ボリュームパラメータに、標準 ASCII シーケンスフォーマットで、“`UseMethod`” というテキストを引用符なしで挿入してください。

スペクトル蛍光データ

OpenLab CDS EZChrom Edition では、Agilent LC 蛍光検出器 (FLD) の 3D データの取込および表示をサポートします。

機器コントロールドライバの更新

Agilent LC コントロールドライバの更新

- コントロールと操作性をより向上させたステータスダッシュボードの更新
- 1290 クオータナリポンプ (G4204A)
- 1220 Infinity LC DAD (G4294B)
- Flexible Cube (G4227A) (スタンドアローネンドライバ)
- UIB II (G1390B)

Agilent GC コントロールドライバの更新

- マイナーな問題を修正するため、クラシックおよび拡張ドライバの更新
- GC の分析を拡張する新しいメニュー項目
- GC トレイ ユーザーインターフェイスの強化 (RC.NETのみ)
- メソッド監査証跡およびメソッド変換監査証跡

Hitachi LC コントロールドライバ

- デフォルトインストールの内蔵ドライバ
- Chromaster LC のサポート
- LaChrom Elite と Ultra の XP オペレーティングシステムでのサポート

490マイクロ GC コントロール ドライバの更新

- EZChrom エディションの VL バージョンで使用可能になりました

OpenLab ドキュメントおよびマニュアルにアクセスするための新しい HTML ページ

OpenLab CDS ドキュメントの新しい HTML ページは、[スタート] メニュー > [すべてのプログラム] > [Agilent Technologies] > [OpenLab CDS ドキュメント] からアクセスできます。

バージョン A.04.03

マスターインストーラの更新

マスターインストーラでは、自動アップグレードが可能な既存の A.04.02 システムの上にスタックインストールがサポートされます。A.04.01 からの自動アップグレードはサポートされません。

分析中の再解析ステータス

オートメーションインターフェイスでは、再解析後に収集されるデータの係数値、および計算や、LIMS などのその他のアプリケーションとの統合に使用されるデータの係数値が入手できます。詳細については、オートメーションの文書を参照してください。

インテリジェントレポートの更新

インテリジェントレポートエンジンは、最新のバージョン (A.01.02) を搭載するように更新されました。これにより、レポートプレビュー、レポート書式、およびクロマトグラムの表示が改善されました。さらにバージョン 1.1、1.2、および 1.3 の ACAML フォーマットをサポートするように更新されました。新たに生成される ACAML 情報は、バージョン 1.3 の書式内にあります。

結果フラグのアップロード

新たなオプションでは、再解析の結果として自動的に ECM に設定される結果セットのアップロードが可能になります。このオプションは、選択、選択解除のいずれも可能です。

新製品の紹介

OpenLab CDS EZChrom VL

コンパクト機器のみのワークステーションコントロール用に低価格のオプションが用意されています。サポートされるクロマトグラフ機器の詳細については、ファームウェアのサポート文書を参照してください。

OpenLab CDS EZChrom Edition Compact

最大 2 つの同時機器セッションが起動可能なコンパクト機器や、マイクロ 490GC 機器のワークステーションコントロール用に低価格のオプションが用意されています。サポートされるクロマトグラフ機器の詳細については、ファームウェアのサポート文書を参照してください。

新しい機器コントロールドライバ

更新された Agilent LC ドライバ

- フラクションコレクタモジュールのサポート
- フラクションの注釈
- アクティブなフラクション処理
- フラクションレポートの挿入
- フラクションコレクタを使用したシーケンスの実行
- コンフィグレーションの変更通知
- 開始ロケーション
- ディレイタイム

新しい Agilent CTC RC.NET ドライバ

- Agilent CTC ハードウェアのフルコントロール
- CombiPAL、GC-PAL、LC-PAL、HTS-PAL、および HTS-PAL モデルのサポート
- サンプルオーバーラップのサポート
- コンフィグレーションの改善
- カスタムサイクル
- エラー処理の改善
- クイックバリデーション

GC ドライバの更新

- 報告されている問題の改善
- 再導入されたクラシック 6890 GC ドライバで、EZChrom ソフトウェアの旧バージョンからのクラシック 6890 ベースメソッドを使用可能

バージョン A.04.02

Agilent OpenLab ECM の接続性

OpenLab CDS EZChrom Edition A.04.02 リリースでは、ECM がデータの保存ロケーションとしてサポートされるようになりました。この機能により、データシステムで以下の拡張機能が利用できます。

ECM によって、Agilent OpenLab Enterprise Content Management (ECM) システムに有効な保存ロケーションおよび認証プロバイダとして CDS から直接データの保存および取得を行います。これには以下のようない点があります。

- データ、メソッド、およびシーケンスのキーワード検索
- 共有とレビュー用の Web ベースのデータアクセス
- 自動のデータアーカイブ
- 結果パッケージのバージョンコントロール
- 強化されたセキュリティ
- CDS データのあらゆるラボコンテンツとの統合
- シンクライアントのコンフィグレーションサポート (ChemStation エディション)

アプリケーションの仮想化

以下のシンクライアントソリューションを用いて、分散型の OpenLab CDS クライアントをサポートします。

- Citrix XenApp 5.0 および 6.0
- Windows Server 2008 R2 を使用した Windows ターミナルサービス

OpenLab コントロールパネル/Shared Services の更新

OpenLab コントロールパネルの全体表示で注入数 (現在の注入/全体の注入) および残りの分析時間の表示をサポート

Shared Services 用のデータベースサーバとして Oracle 11g をサポート

マスターインストーラ

OpenLab CDS コンポーネントの自動アンインストールはすべてマスターインストーラから利用できます。

新しい機器コントロール

以下の新規または更新された機器コントロールドライバをこのリリースで使用できます。

- LTM (低熱容量) 付き Agilent 7890A のサポート
- Agilent 490/4900 マイクロ GC (元 Varian)
- Varian 200X マイクロ GC
- 新しい Agilent 7697A ヘッドスペースサンプラーのサポート
- Varian 3800/3900 GC
- SS420X A/D
- Perkin Elmer Nelson A/D
- Perkin Elmer Autosystem XL GC
- Perkin Elmer シリーズ 200 LC

iControl Panel ツール

ユーザーが提供するアプリケーションにより、OpenLab コントロールパネルの情報をリモートで表示できます。これによりユーザーは、iPhone、iPad、またはその他のスマートフォンからリモートでログブックや機器ステータスなどを確認できます。このアプリケーションは、OpenLab CDS に同梱されるサポートディスクで提供されます。詳細については、OpenLab CDS インストールメディアの Disk6 の Tools¥OpenLab CDS iControlPanel フォルダーにあるインストールガイドを参照してください。

バージョン A.04.01

インテリジェントレポート

OpenLab CDS には新しいインテリジェントレポート機能が用意されています。新規インテリジェントレポートは、メソッドおよび詳細レポートに加えて提供されます。新規インテリジェントレポートでは、業界標準のレポート書式で最新のレポートを作成できます。利用が容易な WYSIWYG インターフェイスの内蔵された新規のレポートテンプレートエディタを使用すると、レポートテンプレートを簡単に作成、変更することができます。レポートテンプレートは、Microsoft Business Intelligence Studio でも使用されている標準のレポート定義言語 (RDL) で保存されます。

追加ワークフロー

OpenLab CDS EZChrom Edition のワークフローは柔軟で直感的

新しい結果モード:

OpenLab CDS EZChrom Edition は、データが収集された後に、ランのシーケンスを結果セットという名前に指定します。新しいメニューは、[ファイル/開く] ダイアログにあり、ナビゲーションテーブルで容易にレビューできるように全シーケンスを利用可能にします。

結果パッケージモード:

OpenLab CDS EZChrom Edition には結果パッケージを作成するメカニズムがあります。このパッケージで、サブディレクトリが作成され、今後いつでもランを再解析できるように必要なあらゆる項目がコピーされます。取込メソッド、レポートテンプレート、レポート、およびサンプル準備テンプレートをすべてパッケージに組み込むように選択できます。このモードでは、データを再解析する際に、メソッドに対するあらゆる変更を結果パッケージに内蔵されたメソッドで実行します。メソッドフォルダーのメソッドでは行いません。結果パッケージにいつでもランを追加できます。

マスター・メソッドモード:

結果パッケージモードでも、「マスター・メソッド」で動作させることができます。これは、結果パッケージのデータと共にあるメソッドの保存場所が `project\methods` フォルダーのメソッドが、「使用する」メソッドである場合です。システム内には、マスター・メソッドへのアクセスを制限できる新しい認証がある一方で、ユーザーは尚も動作メソッドに必要な変更を行えます。

機器の改善:

ここでは、複数の注入源を使用して設定されるシングル機器を有しており、メソッドでその注入源を選択することができます。これにより、オート液体サンプラ、ヘッドスペース、またはバルブ付きの GC などの機器を容易に利用できるようになり、すべてを同時に設定できます。また、GC 機器のコンフィグレーションはメソッドの一部になりました。

OpenLab コントロールパネル / OpenLab Shared Services

OpenLab Shared Services では、OpenLab CDS の ChemStation および EZChrom Edition に共通のインターフェイスを使用して、ユーザー、機器、およびライセンスを管理できます。OpenLab Shared Services は OpenLab コントロールパネルで管理されます。

機器管理:

OpenLab コントロールパネルでは、個別に、または容易に管理できるグループで、機器の設定およびコンフィグレーションを行えます。OpenLab コントロールパネルから、機器を起動します。さらにコントロールパネルでは、ワークステーションまたはネットワークワークステーションにおいて、全体の機器ステータスを表示できます。

ユーザー管理:

OpenLab コントロールパネルでは、ユーザー、グループ、ロール、および権限を管理できます。ECM システムまたは Windows ドメイン内でユーザーを管理する場合、これらの既存のユーザーを OpenLab Shared Services にマッピングできます。

ライセンス管理:

このサービスでは、機器モジュールおよびアドオンが必要とするライセンスの管理を行います。ライセンスの追加や削除、およびすべてのライセンスのステータス表示が可能です。

プロジェクト管理:

OpenLab コントロールパネルでは、システムにプロジェクトと、そのパスやコンフィグレーションの設定を作成できます。プロジェクトをグループにまとめて、設定をグループ全体に容易に適用できます。

新しいライセンス

OpenLab CDS EZChrom Edition では、ライセンスをより効果的に使用できる新しいライセンス方針を導入しています。機器コントロール、ドライバおよびアドオンのライセンスは、すべてフローティングライセンスです。機器は、起動時にライセンス管理へ必要なライセンスを要求し、終了時にライセンスを戻します。新規ライセンス取得については、Flexera Software™ SubScribeNet® technology に基づいています。この方式により、ソフトウェアライセンス管理およびライセンスの追跡が簡素化され、リリース直後の新規または緊急のソフトウェアおよびパッチのダウンロード情報を受け取ることができます。

新しい通信レイヤ

OpenLab CDS EZChrom Edition は、通信用に Microsoft® によって提供されるモダンな業界標準のツール（WPF/WCF）を使用しています。このテクノロジーでは、TCP/IP が通信プロトコルとして使用されており、新しい機器で設定したシステムでは旧型の DCOM プロトコルを使用する必要がなくなりました。これにより、一般的なファイアウォールおよびポートをシステムに影響を与えずに使用でき、標準かつ安全な IT 環境に適合させることができます。

印刷

OpenLab CDS EZChrom Edition A.04.01 では、PDF プリンタおよび監視フォルダーを使用して印刷結果を生成する新たなメカニズムが導入されました。結果の PDF のコピーが常に作成され、この新機能を使用してオプションで印刷することができます。これにより、ローカルおよびネットワークプリンタを適切に利用して、使用的するシステムが異なるコンポーネントを超えて設定する必要がなくなりました。

ソフトウェアステータスおよびリリース報告

OpenLab CDS EZChrom Edition ソフトウェアのリリース時の既知の問題および回避方法については、オンラインで以下に掲載するソフトウェアステータス報告ファイルを参照してください。

<http://www.agilent.com/en-us/support/m82xxreva-04xssb>

すべての Agilent ソフトウェア製品の最新の問題に関する情報 <http://www.agilent.com> も参照してください。

部品番号 : M8201-96208 Rev. B
エディション 2018 年 8 月

© Agilent Technologies, Inc. 2010-2018

Agilent Technologies
5301 Stevens Creek Blvd.
Santa Clara, CA 95051
USA